審査でこんな質問がされ、自由討議でこんな意見が出ました。

Q 大雨や短時間豪雨の頻発化により、高齢者世帯等への新たな避難情報の必要性をどう考えているか。また、現在の茶こちゃんメールの登録件数は。

A 現在、避難情報の発信は同報無線、ホームページ、茶こちゃんメール、SNS、dボタンで実施している。スマートフォンや携帯電話は高齢者の所持率も高くなってきており、茶こちゃんメールの登録者数を伸ばすことが特に有効であると考えている。イベントや出前行政講座でチラシを配布して、登録者数の増加に努めている。また、避難所の開設のタイミングを早めることによって早期に避難場所を確保することも重要と考えている。今後、避難行動要支援者の個別避難計画を作成することにより、個々の状況に合った避難誘導につなげていきたい。さらに、ハザードマップを用いたマイタイムラインの作成についても、高齢者やひとり暮らし世帯に関わりの深い民生委員や児童委員にも協力していただき進めている。茶こちゃんメールの登録者数は、令和4年度末で7,374人である。

要支援者の個別避難計画を立てることは、非常に重要であるため、確実に事業が完成するように進めてほしい。

災害時の情報収集手段としてスマートフォンの使い方を高齢者に対してレクチャーする機会を増やしてほしい。

Q 消防団活性化検討委員会において、どのような検討が進められているのか。

A 消防団活性化検討委員会では、喫緊の課題となっている消防団の成り手不足を解消するため、消防団員の確保につながる活動環境整備及び処遇改善を重点的に検討している。令和4年度では計3回の検討委員会を開催し、消防団員の準中型免許取得、団員の報酬見直し、消防団員の勧誘活動、消防団員の処遇改善、広報活動の充実、コロナ禍が明け、お祭りなどの地域コミュニティー活動が再開したときにおける勧誘活動の実施などを支えるように提言をいただいている。また、検討委員会の委員である連合自治会の役員からは、消防団員不足は自治会活動における課題であると認識していただいており、連合自治会から全ての単位自治会に対し、地域防災の担い手として重要である消防団員の確保を励行するよう、通知を出すなどの協力をいただいている。

消防団員の確保については、現在、消防団員が自治会長会議等に説明に来てお願いをしてくれている。今年からお祭りなどの機会でも呼びかけをするということだが、少子化で対象者が少なくなってきている中、さらに消防団員の処遇改善を図る必要がある。